

科目「野菜」

単位数	4単位
学年	2学年
教科書	野菜

1. 授業のねらい

野菜の消費はますます多様化しており、郷土的料理が復活歓迎されるかと思えば、新しい異国の野菜料理が紹介されるといった状態である。また、最近では「有機野菜」や野菜のもつ機能性などへの興味・関心も高まり、それに対応した生産や消費も世界的に取り組まれるようになってきている。

このように、農業の多様化の中で、野菜生産はいろいろな課題を抱えている。こうした課題を解決するためには、土と肥料との関係を全面的に見直す必要があり、環境汚染を起こさない施肥の基準というものを考えながら、「栽培を科学する」ということを理解させる。

2. 授業の内容と進め方

- ①野菜生産の役割と動向について学習します。
- ②野菜の特性と栽培技術について実習を通して学習していきます。
- ③沖縄の気候にあった野菜を中心に、栽培方法、管理方法について座学や実習を行い学習します。
- ④野菜生産の環境について学習していきます。

3. 学習する上での留意点

- ①使用する農機具の名称及び取り扱い方を学びます。
- ②肥料や農薬などの名称や適切な使用方法を学びます。
- ③専門用語の意味をしっかりと学習します。
- ④実習はグループ学習が中心となります。自主性、協調性、責任感を身につけましょう。
- ⑤作物の観察記録を行い、自分たちの育てている野菜について関心を持ちましょう。
- ⑥実習時は実習服を着用し、ケガや事故の無いよう注意します。

4. 課題・補講について

長期休業中に、指定した文献の中から本を読みレポート提出を行う予定です。また、その期間外での自主的なレポート、自主的な栽培管理に関するレポート提出も大歓迎です。

成績が不十分の場合は、補充、課題を実施します。

5. 評価の観点・方法について

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①野菜栽培に興味・関心が高く、責任をもって取り組んでいるか。 ②実習に主体的に参加し、意欲的に取り組んでいるか。 ③グループの生徒と協調性をもって実習に望んでいるか。	実習服、学習用具の準備 授業への取り組みや態度 学習記録用紙への記入
思考・判断	①記録用紙の自己評価に客観的な判断がなされているか。 ②実験や実習の記録がきちんと整理され、結果に対する考察が十分であるか。	学習記録用紙の自己評価 内容 レポート
技術・表現	①農器具の取り扱いが適切であるか。 ②野菜の栽培について基礎的な技術を身につけているか。 ③指導内容どおり、野菜の播種や鉢上げ、定植ができているか。	農具の取り扱い方 野菜の播種、鉢上げ及び 定植 実技試験
知識・理解	①野菜についての基礎的な知識や技術を身につけているか。 ②野菜の特性や栽培環境、栽培技術について基礎的な知識を身につけているか。	中間考査 期末考査